

平成 28 年度 大学生の力を活用した集落復興支援事業 報告書

南会津町大桃集落
＋
日本大学工学部建築計画研究室

2017 年 3 月

目次

I はじめに

1 研究室概要

2 集落概要

① 位置

② 資源

③ 世帯

II 活動報告

1 大桃の舞台

(1) 「大桃の舞台」とは

(2) 大桃夢舞台ミーティング

(3) 大桃夢舞台

(4) 会場配置に関する評価アンケート

(5) 大桃の舞台に関する意識調査

■来客者の大桃の舞台に関する意識

■大桃住民の大桃の舞台に関する意識

2 全世帯ヒアリング調査

III 今後に向けて

IV 終わりに

I はじめに

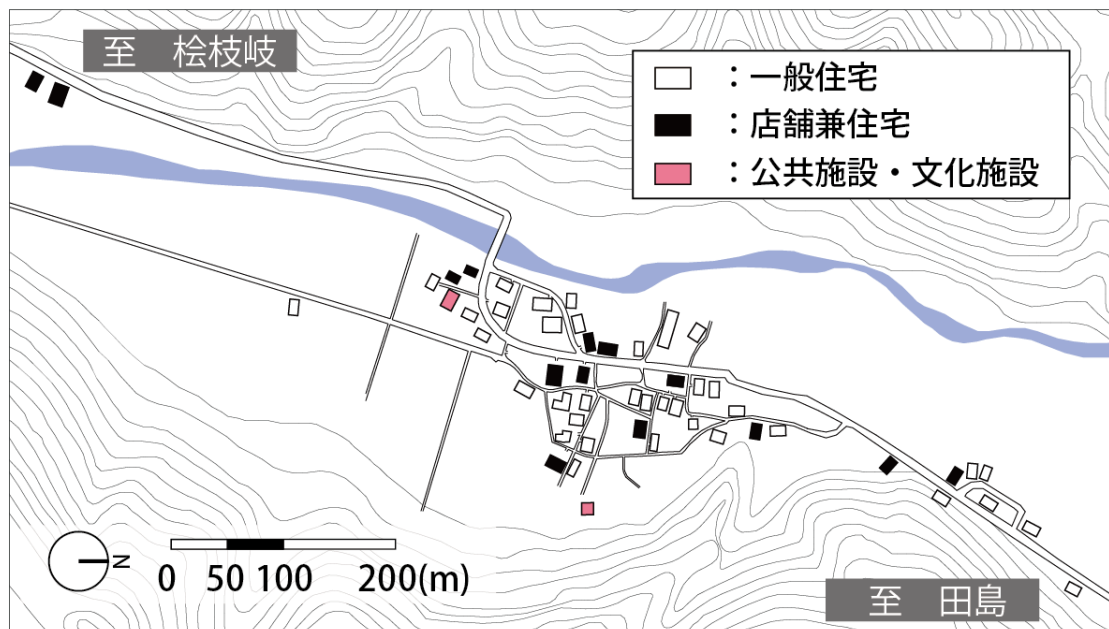
1 研究室概要

我がグループ（日本大学工学部建築計画研究室）は7名のゼミ生で活動してきた。本年度は実態調査等を通じて現地で住民の方の話を伺いながら集落の現状及び課題を把握し、集落独自の活性に必要な手がかりを模索するため調査・分析を行った。本事業は福島県南会津郡南会津町大桃地区に合計11回訪れ、大桃地区特有の資源や大桃地区住民の生活実態に着目しつつ、大桃集落の維持向上を目的とした活動を行った。

2 集落概要

①位置

大桃集落は福島県南会津郡南会津町の南西部の山合いに位置し、そこに50数軒の建物が密集する様に集落を形成している。集落内は沼田街道（国道352線）と伊南川が平行に通り、美しいと車で並走できる。



所在： 福島県南会津郡南会津町大桃地区

②資源

大桃地区は舞台・温泉・スキー場などの観光的なスポットを有している。地域資源プロットを見ると、住宅が密集する大桃集落内に「大桃の舞台」があり、温泉やスキー場は集落から少々離れているが点在していることがわかる。

表 1 地域資源一覧

観 光	大桃の舞台	大桃字居平 1 6 4
	小豆温泉（花木の宿）	大桃字居沢山 1 0 4 1-1
	会津高原高畑スキー場	大桃字一の間々 2 0-3
風 景	伊南川	伊南地域
	屏風岩	大桃字平沢山地内

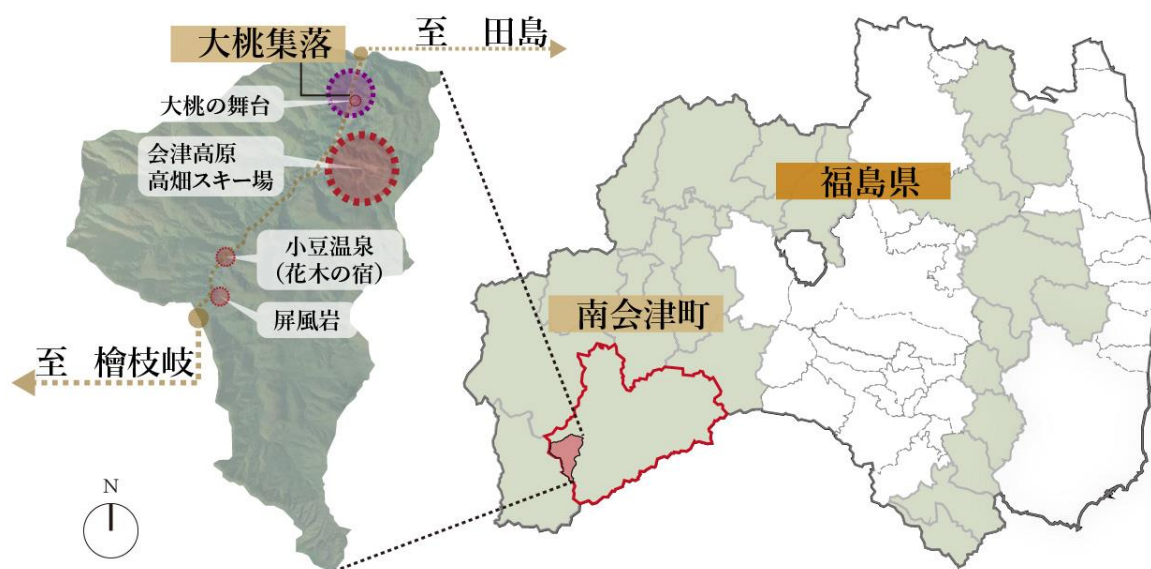


図 1 大桃地区の所在・地域資源プロット図

③世帯

大桃集落は 2016 年現在、50 戸の世帯数があり、集落人口は 138 人である。男女比は男性 42%（58 人）、女性 58%（80 人）と女性の割合が高い。65 歳以上の住民が 71 名（高齢化率 51.5%）いるため、集落の半数以上は高齢者である。

3 活動スケジュール

表2 28年度活動内容

4月20日	顔合わせ・集落案内
5月29日	大桃夢舞台ミーティング出席
7月9日	大桃夢舞台ミーティング出席・会場配置の提案
7月30日	大桃夢舞台ミーティング出席・会場配置の再提案
8月5日	大桃夢舞台の会場設営手伝い
8月6日	大桃夢舞台当日。会場運営手伝い
8月7日	大桃夢舞台の会場片付けの手伝い
11月6日	全世帯を対象に訪問・ヒアリング調査
11月12日	全世帯を対象に訪問・ヒアリング調査
11月13日	全世帯を対象に訪問・ヒアリング調査
11月23日	大桃集落住民を対象に事業活動の報告会
2月11日	福島県で大学生事業活動報告会

Ⅱ 活動報告

1 大桃の舞台

(1) 「大桃の舞台」とは

集落内は国指定重要有形民俗文化財の「大桃の舞台」がある。かつて南会津は地歌舞伎の一座があり、多くの舞台が存在していたが、現存する舞台は「大桃の舞台」と隣接する檜枝岐村の「檜枝岐の舞台」の二箇所のみである。近年では地歌舞伎のみならず、地域おこし「大桃夢舞台」により小塩神楽や水引芸など、多種多様な演目が上演され、以前と変わらず地域の娯楽・交流の場として利用されている。



「大桃の舞台」は「大桃夢舞台」のような行事を通して、大桃集落に外部の観客を一斉に受け入れる許容性を有し、集落の発展を担う可能性を持つ地域資源だと感じた。



図2 大桃の舞台

（２）大桃夢舞台ミーティング

「大桃夢舞台」に向けて、行事当日（８月６日）までの約４ヶ月間、我々大学生グループは合計３回のミーティングに参加し当日の会場配置計画に携わった。この行事は年に一度しか行われませんが、集落唯一の娯楽行事であり地域内外の交流といった大桃集落の活力の資源であり今年度の「大桃夢舞台」では従来よりも、より強い賑わいと一体感、そして独自性を生み出すことが課題であった。

１回目のミーティングは、大桃区長さんをはじめ大桃集落の住民（以下、「集落住民」と略）や南会津町振興公社伊南支局の職員（以下、「職員方」と略）の方々で行い、大桃夢舞台の概要等の説明をして頂き、会場の流れや問題点を確認した。

２回目のミーティングは、問題点の改善を目指し従来とは異なる大桃夢舞台の会場配置を我々学生で考え、配置図を作成して提案した。今年度の大桃夢舞台の運営・物品販売等を行う集落住民・職員方に意見を頂き、改善点を明確にできた。



図３ 大桃夢舞台の会場配置計画の話し合いの様子

3回目のミーティングは前回のミーティングの改善点を整理し、配置計画の図面の作成・再提案を行った（図4）。更に、お祭りの賑わいを持つ雰囲気を引き出すために2種類の道具も提案した（図5）。

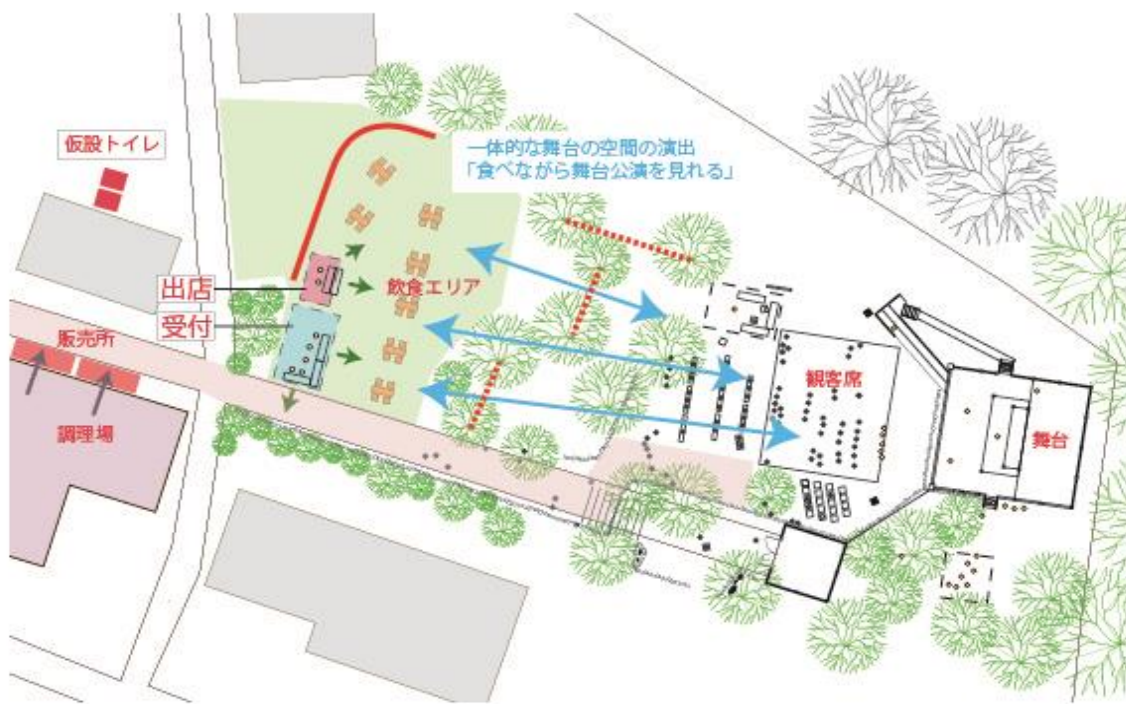


図4 提案した夢舞台の会場配置図



図5 提案した2種類の道具（紅白幕・のれん）

（３） 大桃夢舞台

大桃夢舞台前日（８月５日）に、我々学生も地域住民・職員方とともに会場設営作業を行った。提案した会場配置・紅白幕を採用・準備して頂き、学生の無理ある提案を柔軟に対応してくれた皆さまには、底知れぬ許容力と活力を感じた。



図６ 会場設営作業の様子

大桃夢舞台当日（８月６日）、早朝から集落住民・職員の方々と共に、運営・進行の確認を行い我々大学生は大桃夢舞台で販売される焼きイワナやばんでいもち、かき氷等の売り子を担当した。午後からイベントが開催されるが、午前中のうちから徐々に観客が集まり、賑わう様子が見られ、舞台からも演目による楽しげな音が集落中を轟かせてお祭りの雰囲気を生み出していた。

表 3 28 年度大桃夢舞台演目一覧

12:30	開場
13:35	小塩神楽
13:55	古町七福神
14:15	青柳八木節笠踊り
14:20	早乙女踊り
14:35	久川城太鼓
15:05	2020 東京オリンピック
15:10	アロアフラ
15:20	水引十人芸
15:35	アロアフラ
15:50	田島祇園祭屋台歌舞伎

今年度の会場特性について記す。

■ 既存の住宅を調理場・販売所にする

かつて民宿だった住宅の調理場の機能性を生かし、そば茹で・焼きイワナ・ばんでいもち等の調理場とした。また、その住宅の窓際に屋根・テーブルを設置して販売所とした。



図8 利用した住宅の調理場（左）と窓際の販売所（右）

■ 販わう動線

販売所から舞台・飲食場に通じる道を一本化して人の密集度を高めることを試みた。結果的に、そば・焼きイワナ等を手に持って舞台に向かって歩く観客の姿が見られた。周囲の観客もそれを見つけて販売所に向かっていったため、販売物のアピール効果につながっていたが、食べ物を運ぶ作業が困難な方に対する考慮が足りない面も見られた。



図9 そばを持って舞台・飲食場に向かう様子

■紅白幕と舞台が見える飲食場

観客席の後方に飲食場を設け、飲食中でも舞台の様子が見えるようにした。更に飲食場のから民家が見えるため、紅白幕で隠し、雰囲気을阻害しないように試みた。



図 10 飲食場の様子

(4) 会場配置に関する評価アンケート

来客者にアンケートを配布し、会場に対する意識を確認した。その際、SD法を用いて調査した。結果を見るとすべての問で半数以上が高評価されていることがわかる。「利用しやすさ・アクセス」といった機能評価の問（問・問）を見ると共に「しやすい」と回答する割合が60%を超え、また、それ以外は「普通」と回答している。また「雰囲気・居心地」といった空間評価の問（問・問）を見ると共に「良い」と回答する割合が70%を超えているが、4%の「良くない」と回答している。つまり、全体的に好評的でありつつ、空間面のブラッシュアップが必要であると解った。

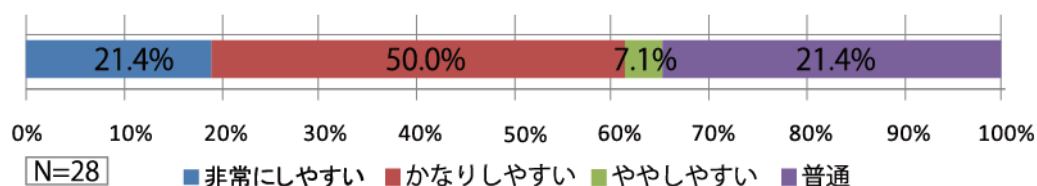


図 11 会場の利用のしやすさに関する評価

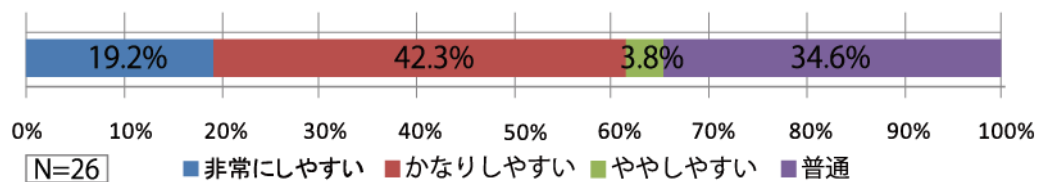


図 12 会場のアクセスに関する評価

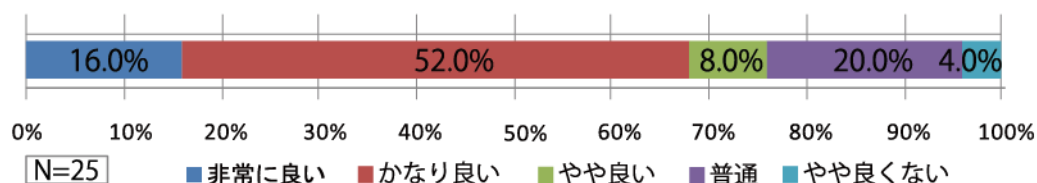


図 13 会場の雰囲気に関する評価

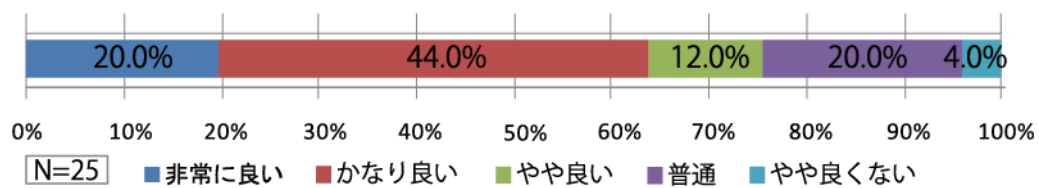


図 14 会場の居心地に関する評価

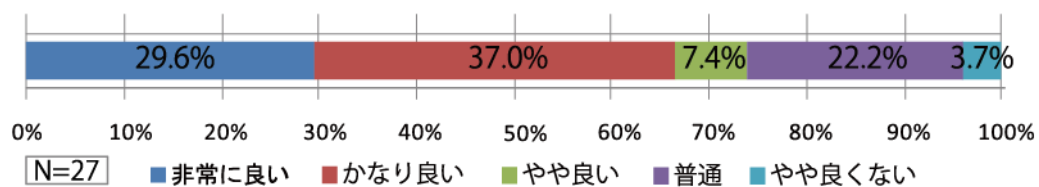


図 15 会場の好ましさに関する評価

（５）大桃の舞台に関する意識調査

大桃の舞台の価値を測るために、来客者と大桃住民を対象に大桃の舞台に関する印象をアンケートにて調査した。

■ 来客者の大桃の舞台に関する意識

28年度大桃の夢舞台に来場した方を対象にアンケートを配布し、来客者が大桃の舞台に対してどのような意識を持つのかを調査した。なお、アンケート用紙は「会場の配置に関する評価アンケート」と合わせて作成した。

回答者の性別・年齢を図 16 に記す。回答者の特徴として、男性 64.3%、女性 31.0%と男性の割合が大きく、回答者の年齢を見ると 50～70 代の割合が多く、特に 60 代の来客者が多いことがわかる。また、来場回数を見ると、初めて来場した方の割合が半数近くあり、次いで 2～4 回目の来場者が多い。来場者の住所を見ると大桃地区の回答者は少ないが、その周辺である地区（南会津町内と総称）から多くの来場者がいる。また南会津町のみならず福島県内・外から多様な地域から訪れてきている。

回答者の性別				
	男性	女性	無回答	合計
回答数	27	13	2	42
割合(%)	64.3	31.0	4.8	100.0

回答者の年齢											
	～9歳	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳～	無回答	合計
回答数	0	0	1	1	4	7	14	7	1	7	42
割合(%)	0.0	0.0	2.4	2.4	9.5	16.7	33.3	16.7	2.4	16.7	100.0

来場回数						
	初めて	2～4 回目	5～9 回目	10 回以上	無回答	合計
回答数	19	15	4	3	1	42
割合(%)	45.2	35.7	9.5	7.1	2.4	100.0

来場者の住所		
福島県内	大桃地区	2
	南会津町内	16
	福島市	1
	只見市	1
	会津若松市	2
	二本松市	1
	白河市	1
	いわき市	1
福島県外	宮城県	1
	新潟県	1
	栃木県	3
	茨城県	4
	千葉県	1
	神奈川県	1
	東京都	1
無回答		5
合計		42

図 16 回答者の属性

「回答者にとって大桃の舞台はどのような存在か」の問いを図 17 に記す。最も多く得られた回答は「歴史的な価値のある場所」・「他にはない雰囲気を持つ場所」・「大切な観光資源」である。図 16 の来場者の属性より、回答者は初めての来場の上、地域外の各地から来場している方が多いが、地域外の来場者は大桃の舞台に対して、一定の価値を感じつつ独自性を持つ観光資源という印象を持っているようだ。

	回答数	割合(%)
ワクワクする存在	4	6.1
他にはない雰囲気を持つ場所	19	28.8
人と交流出来る場所	4	6.1
普段と変わらない日常生活の一部	0	0.0
大切な観光資源	14	21.2
歴史的な価値のある場所	22	33.3
くつろぎの場所	2	3.0
思い出の場所	1	1.5
合計	66	100.0

図 17 回答者にとって大桃の舞台はどのような存在か（複数回答可）

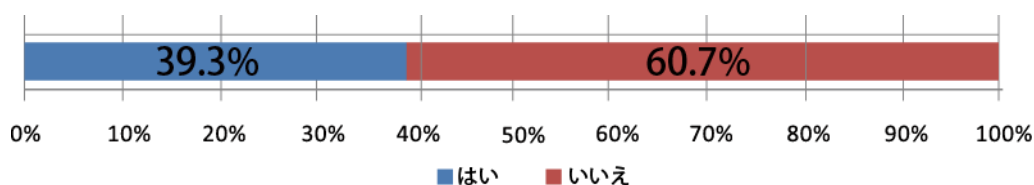
「回答者に親近感を感じるか」の問いを図 18 に記す。8 割近くは親近感を感じると回答している。考察であるが、大桃夢舞台の演目や会場の雰囲気と野外舞台の性質から、馴染みやすい空間を生み出していることが親近感を抱かせている要因でないかと考える。

	回答数	割合(%)
非常に感じる	7	21.2
かなり感じる	13	39.4
やや感じる	6	18.2
どちらでもない	7	21.2
やや感じない	0	0.0
かなり感じない	0	0.0
非常に感じない	0	0.0
合計	33	100.0

図 18 親近感を感じるか

「日常で大桃の舞台を活用したいか否かとその内訳」を図 19 に記す。約 6 割の回答者が「いいえ」と回答しており、その内訳をみると、高齢だから・遠方に住むからと記されている。「はい」と回答した回答者は 4 割ほどではあるが、さらなる舞台活用を望んでいる。

日常で大桃の舞台を活用したいか否か			
	はい	いいえ	合計
回答数	11	17	28
割合(%)	39.3	60.7	100.0



はい（内訳）
文化祭としてだけではなく、活用したい
色んな神楽が見られる
地元だから
舞台がもったいない
年に一度は利用させていただきたい

いいえ（内訳）
遠く離れている福島市民だから
利用するような活動をしていない
とても私では利用できる場所ではない

図 19 日常で大桃の舞台を活用したいか否かとその内訳

「大桃の舞台は特別の場所か否か」の問いを図 20 に記す。8 割以上の回答者が特別な場所と回答している。「いいえ」と回答した回答者が少数いるが、「親近感を感じるか」の問いで、その回答者のほぼ 9 割が「歴史的な価値のある場所」と答えてあり、特別性はないが舞台の価値を感じているようだ。

大桃の舞台は特別の場所か否か			
	はい	いいえ	合計
回答数	26	6	32
割合(%)	81.3	18.8	100.0

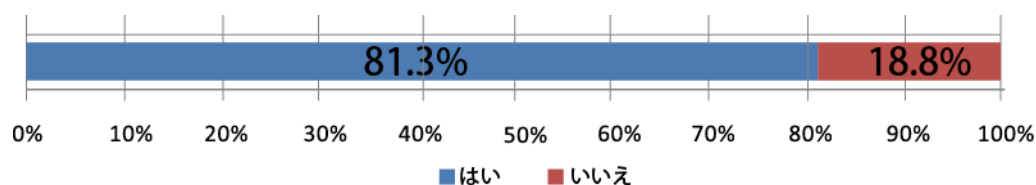


図 20 大桃の舞台は特別の場所か否か

「大桃の舞台がない場合、代わりの場所はあるか否か」の問いを図 21 に記す。8 割以上が大桃の舞台の代わりがないと答えており、来場者にとって大桃の舞台は代替性のないものであるとわかった。「はい」と答えている方に、福島市から訪れた方で福島市にある「旧広瀬座」を代わりの場所としていると回答している。

大桃の舞台がない場合、代わりの場所はあるか否か			
	はい	いいえ	合計
回答数	4	20	24
割合(%)	16.7	83.3	100.0

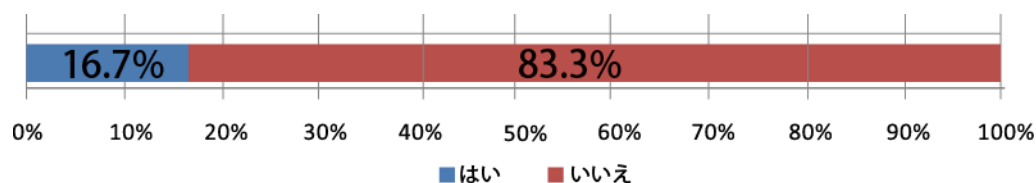
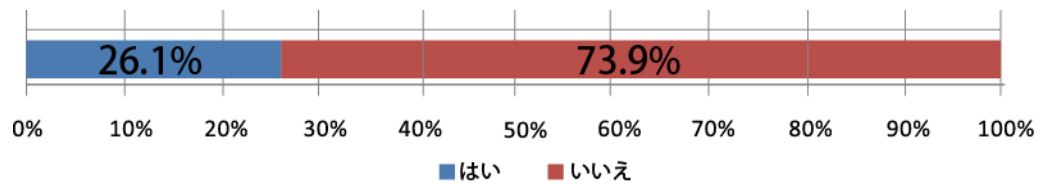


図 21 大桃の舞台がない場合、代わりの場所はあるか否か

「大桃夢舞台の運営に関わりたいか否か」の問いを図 22 に記す。「いいえ」と回答した方の割合が多く、内訳として「高齢だから・遠方だから」と回答している。来場者の年齢層が高齢であることから、大桃の舞台に興味を持ちつつも、運営者として関係を持ちにくいようである。

大桃夢舞台の運営に関わりたいか否か			
	はい	いいえ	合計
回答数	6	17	23
割合(%)	26.1	73.9	100.0



はい（内訳）
時間さえ許せば、協力させてください

いいえ（内訳）
高齢だから
遠方だから

図 22 大桃夢舞台の運営に関わりたいか否か

■ 大桃住民の大桃の舞台に関する意識

28 年度に大桃に住む住民を対象にアンケートを配布し、大桃の住民が大桃の舞台に対してどのような意識を持つのかを調査した。

回答者の性別・年齢を図 23 に記す。回答者の特徴として、男性女性ともに 25 人の方が回答している。回答者の年齢を見ると 50～80 代の割合が多く、特に 60～70 代が多いことがわかる。また、来場回数を見ると、10 回以上の回答が多く、回答者全員が数回訪れていることがわかる。

回答者の性別				
	男性	女性	無回答	合計
回答数	25	25	1	51
割合(%)	49.0	49.0	2.0	100.0

回答者の年齢											
	～9 歳	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 歳～	無回答	合計
回答数	2	1	1	2	3	7	11	11	7	6	51
割合 (%)	3.9	2.0	2.0	3.9	5.9	13.7	21.6	21.6	13.7	11.8	100.0

来場回数						
	0 回	1～4 回	5～9 回	10 回以上	無回答	合計
回答数	0	8	10	15	18	51
割合(%)	0.0	15.7	19.6	29.4	35.3	100.0

図 23 回答者の属性

「回答者にとって大桃の舞台はどのような存在か」の回答を図 24 に記す。なお、大桃の舞台の存在価値を「大切な観光資源・身近な存在・積極的に関わりを持ちたいか・なくてはならない存在」の 4 種類に分けて設問を設定し、5 段階評価を用いて分析を行った。

- ・ 大切な観光資源：大切な観光資源だと回答している回答者は全体の約半数いる。大切な観光資源だとは思わない割合は約 1 割いるが、大桃地区内にある

スキー場や温泉などの他の資源があることが要因ではないだろうか。

- ・ 身近な存在：「とてもそう思う」の回答数がなく、「どちらでもない・そう思わない」の回答数が多いが、現在、大桃の舞台が活用されているのは年に一度のみであり日常的な活用はされていないことが身近さを失っていると考えられる。
- ・ 積極的に関わりを持ちたい：「どちらでもない」の回答数が突出して多い。要因として、舞台の設営作業は大桃住民らで行われるが、高齢者が多い中でその作業は年々厳しくなっている。舞台の活用による活性の必要性を持ちつつも、身体的に関わりにくい状況があるのではないだろうか。
- ・ なくてはならない存在：「そう思う」の回答数が突出して多いが、「とてもそう思う」の回答はない。大桃住民らが大桃の舞台に対してある程度の必要性はあるが、それと言って一番重要なものではないと考えられる。

大桃住民にとって大桃の舞台の存在は、観光資源としてのものであり、日常的に立ち寄るような建物ではない。更に地域を活性する資源としてみていないことも考察できる。

どのような存在か： 大切な観光資源		
	回答数	割合(%)
とてもそう思う	9	17.6
そう思う	16	31.4
どちらでもない	2	3.9
そう思わない	4	7.8
とてもそう思わない	2	3.9
無回答	18	35.3
合計	51	100.0

どのような存在か： 身近な存在		
	回答数	割合(%)
とてもそう思う	0	0.0
そう思う	7	13.7
どちらでもない	12	23.5
そう思わない	10	19.6
とてもそう思わない	2	3.9
無回答	10	39.2
合計	51	100.0

どのような存在か： 積極的に関わりを持ちたい		
	回答数	割合(%)
とてもそう思う	0	0.0
そう思う	6	11.8
どちらでもない	15	29.4
そう思わない	6	11.8
とてもそう思わない	3	5.9
無回答	21	41.2
合計	51	100.0

どのような存在か： なくてはならない存在		
	回答数	割合(%)
とてもそう思う	0	0.0
そう思う	20	39.2
どちらでもない	6	11.8
そう思わない	5	9.8
とてもそう思わない	1	2.0
無回答	19	37.3
合計	51	100.0

図 24 回答者にとって大桃の舞台はどのような存在か

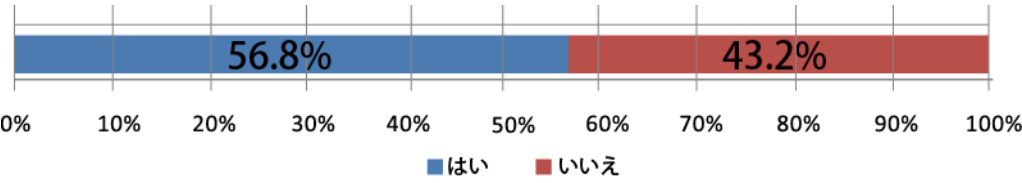
「回答者に親近感を感じるか」の回答を図 25 に記す。半数以上が親近感を感じると回答している。中では幼い頃から大桃の舞台で歌舞伎などの演目を鑑賞している方がいるため、親近感を抱かせているのではないか。

	回答数	割合(%)
非常に感じる	8	15.7
かなり感じる	16	31.4
やや感じる	7	13.7
どちらでもない	7	13.7
やや感じない	2	3.9
かなり感じない	0	0.0
非常に感じない	0	0.0
無回答	11	21.6
合計	33	100.0

図 25 親近感を感じるか

「日常で大桃の舞台を活用したいか否かとその内訳」を図 26 に記す。回答はその内訳をみると、高齢だから・遠方に住むからと記されている。「はい」と回答した回答者は 4 割ほどではあるが、イベントや発表の場の活用を望んでいる。

日常で大桃の舞台を活用したいか否か			
	はい	いいえ	合計
回答数	21	16	37
割合(%)	56.6	43.2	100.0



具体的な内容
音楽などのイベント
多様な分野の発表の場として
小学校の発表の場
芸術祭

理由
家の近くで多くの公演が見られるから
具体的なイメージが湧かない
地方はただの娯楽もなく寂しい限り

図 26 日常で大桃の舞台を活用したいか否かとその具体的な内容・理由

「大桃の舞台は特別の場所か否か」の回答を図 27 に記す。半数以上が大桃の舞台を特別な場所としているものの、11 人が特別な場所ではないと回答している。

「いいえ」の回答者は、舞台が専門性の高い建物ではありながら日常的に近い存在である故に、特別さを感じなくなっているのではないだろうか。

大桃の舞台は特別の場所か否か			
	はい	いいえ	合計
回答数	23	11	34
割合(%)	67.6	32.4	100.0

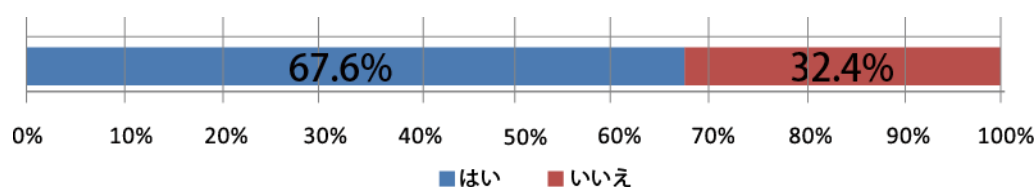


図 27 大桃の舞台は特別の場所か否か

「大桃の舞台がない場合、代わりの場所はあるか否か」の回答を図 28 に記す。8 割以上が大桃の舞台の代わりがないと答えており、大桃住民にとって大桃の舞台は代替性のないものであるとわかった。

大桃の舞台がない場合、代わりの場所はあるか否か			
	はい	いいえ	合計
回答数	5	30	35
割合(%)	14.3	85.7	100.0

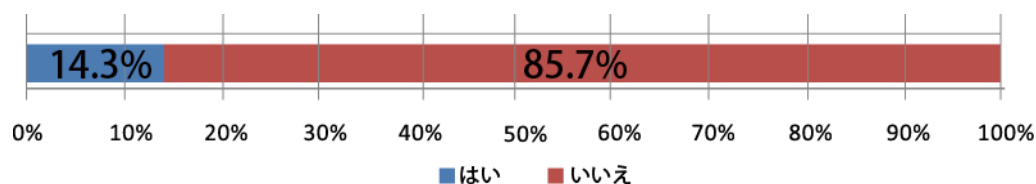
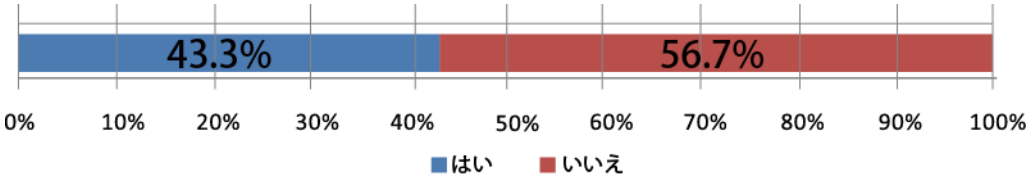


図 28 大桃の舞台がない場合、代わりの場所はあるか否か

「大桃夢舞台の運営に関わりたいか否か」の回答を図 29 に記す。「はい」の回答者の内訳では、個人・地区的な面から運営に関わろうとするものもあり、更に、区民として責任を意識している回答も得られた。「いいえ」の回答数が半数以上あるが、内訳にあるように高齢で運営作業（舞台設営）が困難と回答している。

大桃夢舞台の運営に関わりたいか否か			
	はい	いいえ	合計
回答数	13	17	30
割合(%)	43.3	56.7	100.0



はい（内訳）
気軽に関わってみたい
関わっている
イベントが好きだから
区民としての立場があるから
地区を元気にしたい
管理

いいえ（内訳）
年齢的に厳しい

図 29 大桃夢舞台の運営に関わりたいか否か

2 全世帯ヒアリング調査

大桃集落の全住民を対象にヒアリング調査を行った。ヒアリング内容は、大桃住民の生活実態を明らかにするものであり、これは限界集落に近づく大桃集落の暮らしの実態や利便性を理解・考察し、また、将来についても考察することを目的としている。調査は全 58 世帯を訪問し、33 世帯（69 人）から回答を得られ、50%の有効回答率を得られた。



ヒアリングの様子

「買い物に関する問い」

大桃住民が生活に欠かせない食料品・生活品をどこで・どのように確保しているのかを知るために「買い物をする場所はどこか」と聞いた（図 16）。まず、大型スーパーなどの商業施設が揃う「田島地区」へ移動して買い物をする住民が多いことがわかった。これは大桃集落内にある商店は 2 件のみであり、かつコンビニエンスストアと比べて商品の充実度が低いことが要因である。また「田島地区」で買い物をする際は 1～2 週間分の「まとめ買い」を行い、購入頻度を抑える方法をする方が多いこともわかった。「大桃地区内」で買い物をする方

の割合も多いが、運転できない方（主に高齢者）が歩いて買い物できるためである。3 番目に「伊南地区」で 25%の住民が買い物をするが、これは伊南地区及びその周辺に職場を持つ住民が仕事後に買い物をして帰るためである。

また「買い物をする際の交通手段」を見ると 11 人が家族に頼っている実態から、運転できない人に関しては「田島・伊南地区」のような利便性の高い地区まで自由に行き来できない状況だとわかった。

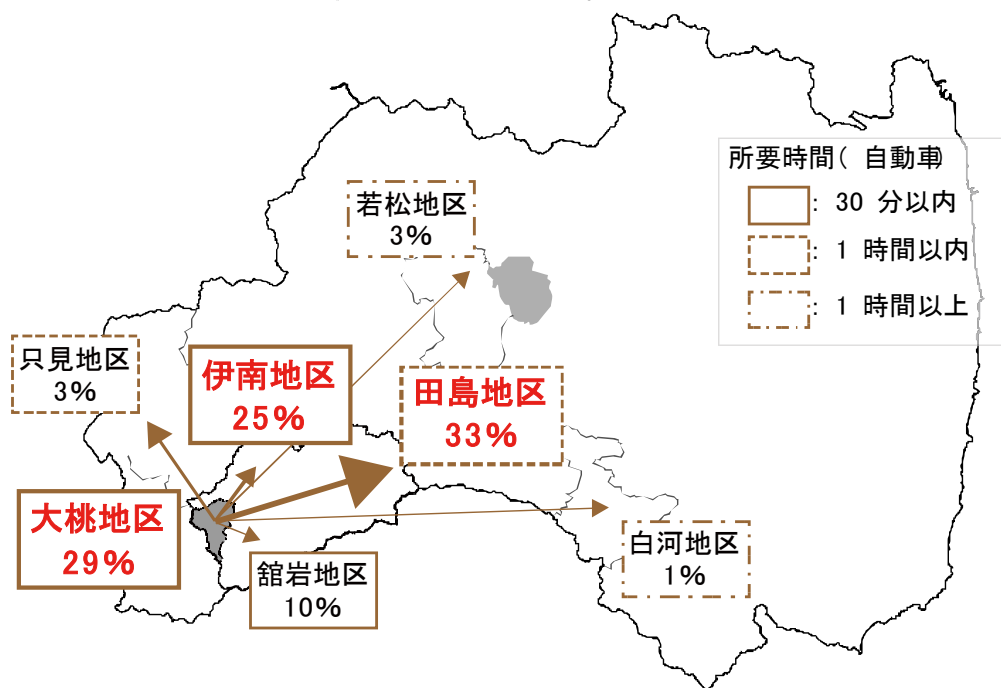


図 16 買い物をする地区及び移動時間

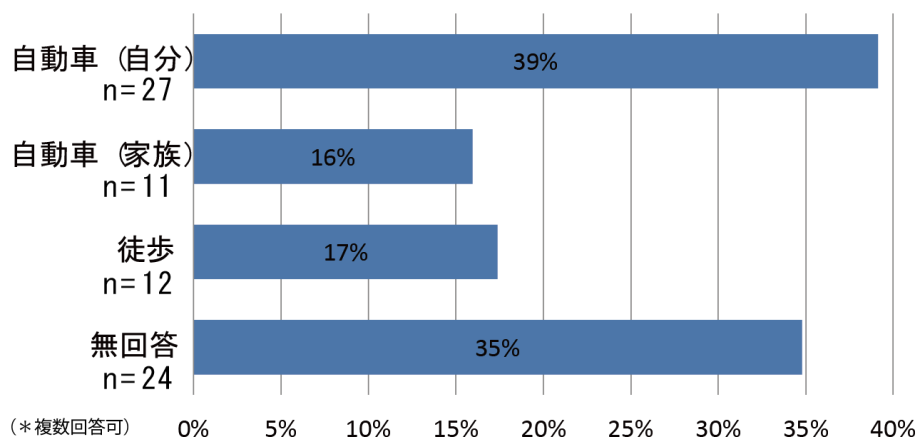


図 17 買い物をする際の交通手段

「病院に関する問い」

診察等を行う際、大桃地区内に診療所・病院等が存在しないため、他の地区に行く必要がある。ヒアリングにより「伊南・南郷地区」の診療所に定期的に通う大桃住民がいることがわかり、他には、「田島地区」にある、比較的大規模な県立南会津病院を利用していることがわかった（図 18）。病院に行く際の交通手段を見ると、自分での運転が多いことがわかり、また、家族に頼んで行く割合は 22 人であり、図 17 の「買い物」と比べて多いことがわかる（図 19）。バスも運行しているが、運行本数が少ないため利用する人が少ない。

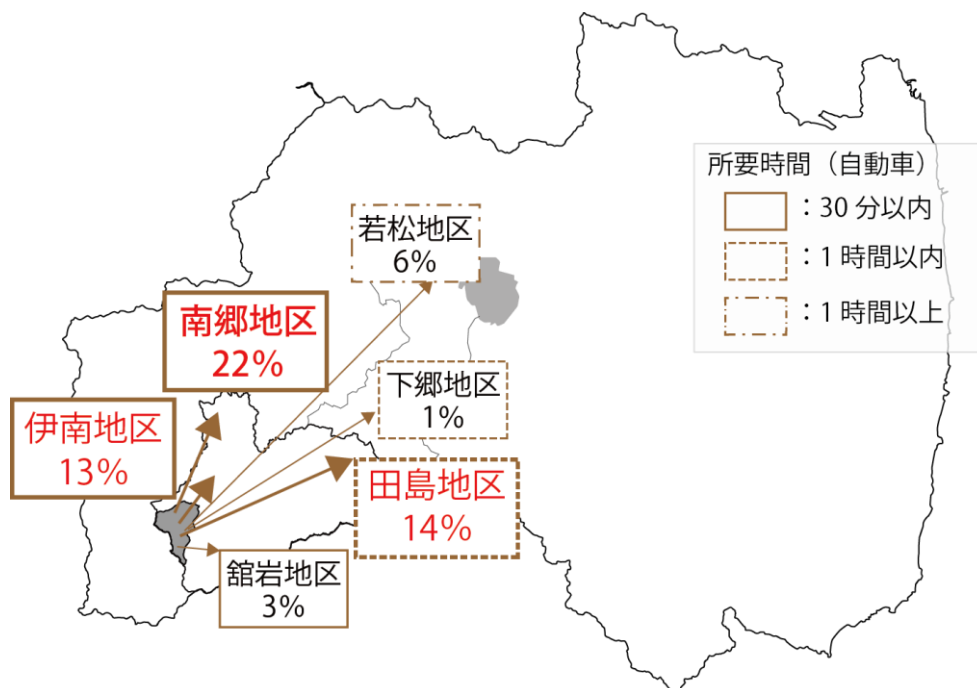


図 18 利用する病院の地区及び移動時間

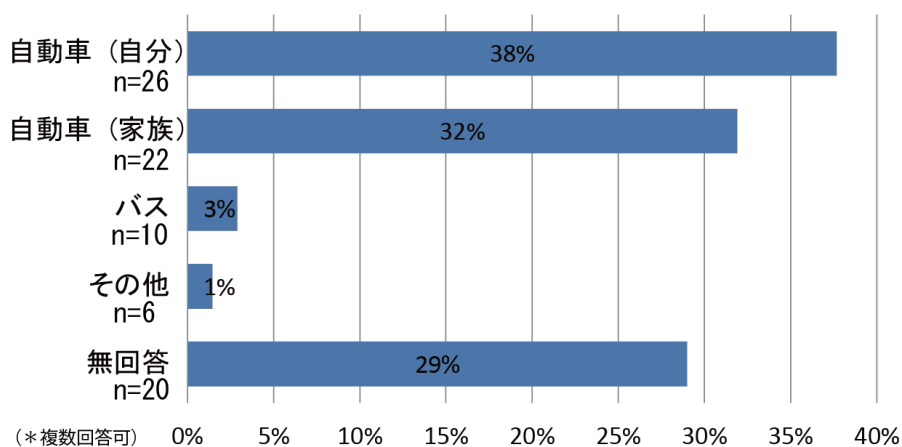


図 19 病院に行く際の交通手段

「運転できるか否か」

大桃地区の高齢化率は高く数値は年々高まる一方で、車の運転ができなくなる割合も増加するだろう。大桃住民にとって運転できることが生活を続ける上で重要な要素であり、「運転できるか否か」と聞いた。運転不可能と答えた方は約30%、運転できる人が約60%いることがわかった。6割の住民が運転可能と示すが、ほぼ全世帯に一人以上は運転可能者がいるため、世帯的に見れば買い物・通院の移動にはある程度は困っていない状況である。しかし、運転できずに一人で暮らす方も存在し親戚が代わって買い物をしている事例もあり、今後、親戚や友人に頼らざるを得ない状況が起こることも予測できる。

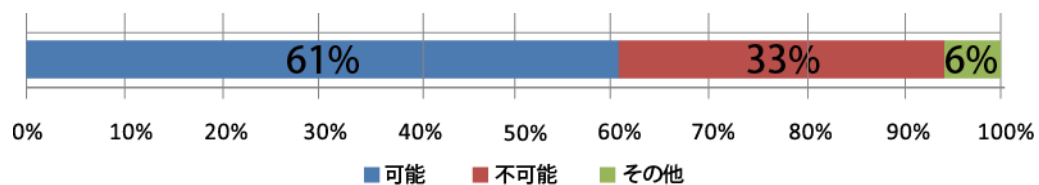


図 20 運転できるか否か

Ⅲ 今後に向けて

大桃の舞台の活用およびヒアリング調査より今後の活性化の方向性をまとめる

大桃の舞台

■実感したこと

- ・大桃の舞台の活用によって地域内外の人々が訪れ、人寄せの力がある。
- ・大桃夢舞台の運営に多くの集落住民が協力し合い、イベントには人と人のつながりを保ち続ける役割がある。

■今後の目標

- ・大桃の舞台を活用し、日常やイベント時の演出性を向上させ、大桃ならではの独自性を生み出し、大桃の価値を引き出すこと。
- ・更にイベントの継続や新たなイベントによって、集落住民間のコミュニティを維持し続ける。

大桃住民の生活

■実感したこと

- ・集落の高齢化がより高まる一方で将来的に生活において困難な状況が生じる。

■今後の目標

将来的に予測される不自由な生活の多角的なサポート。

IV 終わりに

我々グループが拠点とする日本大学工学部は大桃地区と同じ福島県内にあるが、県内では都市部である郡山市に大学がある。集落訪問に出向く際は、大桃地区まで車で3時間かけて移動する必要がある。毎回、過疎化してゆく景色を眺めながら、それらと大桃地区を対比的に見てきた。大桃地区の街並みはどの集落とも変わらず、また、スキー場や温泉などの地域資源を有しているが、同様の地区もある。しかし、集落内にある野外舞台は他にはない希少的なものである。特に、それを集落住民同士で維持・活用（運営）している姿が魅力的で、舞台の価値がそこにあると感じた。本事業を通して、この舞台のような、大桃住民らが協力しあえる装置となりうるものこそ、真の地域資源ではないかと理解できた。真の地域資源を大桃住民の方々と共に再確認し、共に活動していき、「大桃らしさ」を築いていきたい。

謝辞

本事業を行うにあたり、多大なご協力を頂いた、区長はじめ大桃地区住民の皆様と南会津町振興公社伊南支局の方々に深く御礼申し上げます。